

---

# 禅

2012

---

36号 (通巻216号)

## 目次

日々に新たなり 坐のすすめ	丸川 春潭	2
提唱 人間禅『立教の主旨』 第二話 第一項 人間禅は、自利利他の	丸川 春潭	7
提唱 数息観を味わう 第二話 後期の数息観	丸川 春潭	14
講話 数息観評点記録のすすめ	丸川 春潭	29
日本文化と禅 「はじらい」の考察	堀井 妙泉	34
龍吟じ虎嘯く 身近に見る幽石翁の俳句	河本 祖舟	39
禅茶録(その二)	寂庵 宗擇 著 片野 慈啓 訳	44

武道と禅

小川忠太郎範士『稽古日誌』(三)・・・小川 心耕 49

論説

禅公案の英訳は公案の工夫を深めるか

「本来の面目」の場合 …………… 堀 心鑑 55

編集後記 …………… 67

表紙解説



ふせひめさくら 耕雲庵立田英山老師作（市川、1962年4月）／立田英山写真集『花あいしらず』より。

耕雲庵老師（俳号：幽石）は、人間禅第一世総裁。老師には句集『句津籠』（正・続・続々）があります。『句津籠』から春の句をご紹介します（磊山選）。

- 啓蟄やわれに 藜<sup>あかざ</sup>の杖かるし (昭29)
- 空の義は説き尽し得ず 亀鳴けり (昭31)
- 白鳳の鐘の音 如今<sup>いま</sup>に遠霞 (昭31)
- 純情を粗野と言ふまじ 山椿 (昭32)
- 春浅き水雲<sup>もずく</sup>の味や小盃 (昭39)
- 汲み換へし 瓶<sup>かめ</sup>に瞬く春の星 (昭43)
- 前山は朝日に 匂ふ山桜 (昭46)